



主な内容

【4面】GIGAスクールが始まります 【7面】「暮らしの便利帳」を全戸配布します 【8面】新型コロナワクチン接種のお知らせ

市長所信表明

西東京市民であることに誇りを持って まちづくりを目指して

3月8日の西東京市議会第1回定例会において、池澤市長が所信表明を行いました。
以下、所信表明の全文になります。

令和3年西東京市議会第1回定例会の開会に当たり、所信を明らかにする機会をいただきましたことに対し、議長をはじめ、議員の皆様には厚く御礼を申し上げます。

私は、本年2月7日執行の西東京市長選挙におきまして市政を担わせていただくことになりました。

自治体合併による西東京市の誕生から「はたち(20年)」を迎えた本市が、次なるステージに向かうこのタイミングでの市長就任となります。

改めて、この西東京市議会の議場に立たせていただき、私に課せられた使命と責任の重さに、身の引き締まる思いであり、市長として決意を新たにいたしましたところでございます。

さて、昨年1月に新型コロナウイルス感染症の国内感染者が初めて確認されてから、この1年間は、まさに「コロナ色」でありました。

そのような中で、日夜現場で新型コロナウイルス感染症と向き合う医師や看護師の皆様等、医療関係者の方々をはじめ、福祉・介護従事者の皆様、子育て・教育関係者の皆様等に対しまして、深い敬意とともに、心からの感謝の意を表します。

世界中でまん延している新型コロナウイルス感染症により、国内では学校の一斉休校にはじまり、入学式や卒業式の規模縮小、修学旅行、部活動の大会中止、飲食店をはじめとする事業活動の自粛要請、事業活動が停止することによる失業の問題等、数えきれないほど多くの影響が、私たちの日々の生活・暮らしに降りかかってまいりました。

そのような中、コロナ禍において苦しむ市民の皆様へ寄り添い、必要とする行政支援を、いち早くスピード感をもって届けることこそ、基礎自治体である本市の役割と考えております。

新型コロナウイルス感染症への対応は、最も優先すべき課題であり、その対策に万全を尽くしてまいります。誰も経験したことがない一大事業となる新型コロナウイルスに係るワクチン接種事業をはじめ、市内経済の回復等、山積しております課題の一つひとつと向き合い、西東京市政を前に進めるため、職員と一丸となり、その先頭に立って西東京市のリーダーとしての責任を果たしてまいります。そのために市民の皆様、議員の皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

はじめに

私は、昭和57年に保谷市役所に奉職し、これまで39年間、様々な部署を経験する中で、平成13年には当時の田無市・保谷市の合併に携わり、そして平成25年からの8年間は副市長として、市民の皆様のために全力で取り組んでまいりました。

平成12年7月30日、その日は、合併の是非を問



第1回市議会定例会で所信を表明する池澤市長

う市民意向調査が実施され、翌日の午前11時50分に市民の皆様が下された結果が明らかとなった時、苦楽を共にした両市の職員が見せた安堵の表情が、今も私の脳裏に鮮明に焼き付いております。

それから20年 わたしたちのまち 西東京市は、今年「はたち」を迎えました。

私は、節目の20年を迎えるに当たり、自らが先頭に立ち、はたちのまち西東京市のこれからの、これまでの39年間の行政経験を生かし、次なるステージに進めたいと考え、市政を担う決意をいたしました。

西東京市に対する熱い思いを、そして責任をもって、職員とともに市政の運営に臨む覚悟であります。

それでは、市政運営に臨むため、私が掲げた6つのテーマを中心に所見を述べさせていただきます。

子どもにやさしいまち

まずは、「子どもにやさしいまち」についてであります。

私が、このたびの西東京市長選挙で掲げさせていただいた施策の一番の柱は、「子どもにやさしいまち」、もっと言えば「子どもが『ど真ん中』のまちづくり」を進めることにあります。

平成30年には、西東京市子ども条例が制定されました。

私は、子ども条例における市の役割にありますように、「全ての子どもの命を大切に、健やかに育つこと」、このことに寄与できるのか、これを西東京市の施策選択の際の一つの基準にしたいと考えています。

市内公共施設の約6割を占める学校施設の多くが、今後一斉に更新時期を迎えようとしています。最近では、中原小学校やひばりが丘中学校の新校舎を建設しました。私は、どちらの校舎にも足を運びましたが、未来を担う子ども達の学習環境を整えるためにも、老朽化が進む学校施設を、より優先して整備すべきと考えています。

そして、私は、この施設更新の到来は、まちづ

くりを進める上での大きなチャンスではないかと捉えています。

施設の更新には多額のコストがかかりますが、子ども達が健やかに育ち、地域の大人も、そして子ども達も元気になる、そのためには、今までのような施設の建替えではなく、学校が地域の核となるような機能を持たせる、そのことによって、学校を取り巻く地域が、もっと良くなる、そのようなことを考えてまいりました。学校を含む公共施設の在り方をみんなで考える機会を増やし、子ども達からはもちろんのこと、現役世代の方も含め、幅広い方々から多くのご意見をいただき、未来志向の地域教育環境を創出したいと考えています。

私は、子どもが「ど真ん中」にあるまちづくりを進めるに当たりまして、学校が、そのキーステーション(重要な拠点)になるのではと考えています。地域の学校を支える地域住民の皆様を、本市の「スクールサポーター(地域における学校応援団)」として、子どもの健やかな育ちを支え、学校活動を応援し、学校を拠点とした地域づくりの核となる応援制度のような仕組みを作りたいと考えています。



健康で元気なまち

二つ目として「健康で元気なまち」についてです。

本市では、平成23年に健康都市宣言を行い、平成26年には世界保健機関(WHO)が提唱する健康都市連合に加盟するとともに、健康になること、健